

## 出張報告 「世紀転換期の米国における日本宗教の提示についての研究」鹿児島・京都調査

平成25年度國學院大學特別推進研究助成金に採択された研究課題「世紀転換期の米国における日本宗教の提示についての研究」（國特推助第57号）の遂行のため、2013年度中に2度の調査を行った。まず2014年2月24日から3月1日にかけて、鹿児島と京都に行き、次に3月17日から3月19日にかけて、再び京都を訪れて資料調査を行った。これらの概要を以下に報告する。

本研究は標題にあるように19世紀末米国における日本宗教の提示について検討するものであるが、より具体的には米国、特にニューイングランド地方の大学に留学した日本人学生による発信に焦点を合わせた。その一人がハーバード大学神学部を日本人として最初に卒業した小崎成章という人物である（1891年に神学学士を取得）。調査の結果、この小崎は新島襄の没後に同志社二代社長となった小崎弘道の実弟であり、自身も同志社英学校にて学んでいたことがわかった。また、後半生は鹿児島にて第七高等学校造士館（以下七高）の英語教授となっていたことも判明した。

これらを受けて、まず2月24日から27日まで、鹿児島大学中央図書館、鹿児島県立図書館、鹿児島県歴史資料センター黎明館において、郷土資料と七高関連資料を中心に小崎の七高教員時代について調査した。

事前に確認したところ、七高についての資料の多くは戦争の際に焼失してしまったとのことであったが、それでも現存する記録や同窓会資料を披見し、一定の発見があった。また、郷土資料の中に成章の人物評を発見し、

『南日本新聞』上の死亡記事を確認するなどの成果も得た。更に七高の跡地に建てられた鹿児島県歴史資料センター黎明館において七高関連の展示を見学し、当時の様子についての知見を得ることができた。

続いて2月28日から3月1日にかけて主に同志社大学神学部図書館にて調査を行った。兄弘道の自筆稿など関連資料が同図書館に寄贈されて『小崎弘道自筆集』として整理されており、そこに含まれている成章の自筆ノートの内容を確認するためである。具体的にはラーネッドによる教会史講義のノート（1881年）と、講師不明の新約批評講義、デーヴィスの近代の旧約批評講義のノート（1882年）が残されており、これらを確認した。後者には成章の“We are the Temple of God”という説教案（1882年）が含まれており、貴重な発見となった。

次に、3月17日から19日にかけて再び同志社を訪れ、同志社社史資料センターにおいて調査を行った。事前に『同志社百年史』で確認してあったことを他の資料と付き合わせて確認し、また校友会関連資料などから成章の履歴について不明であった時期についての情報を得た。他方、成章が1893年に帰国してから同志社の教員となり、1895年に辞任したことについて、記録は確認できたが、当時の講義科目や辞任の背景等については言及が無く、今後の検討課題となっている。

なお、同センターでの調査にあたっては資料調査員の布施智子氏に大変お世話になった。記して謝意を示す。

（星野靖二）